

九州大学大学院生物資源環境科学府修士学位論文審査基準

(審査体制)

学位論文の審査は、指導教員 1 名および副指導教員 2 名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文で扱う問題設定が、明確に示され、学術論文として学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、正確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、実験や調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。特に研究倫理面や研究遂行上の安全性に配慮した研究方法が採られているか。

4. 論証方法や結論の妥当性

問題設定から結論にいたる論旨は、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。

5. 論文の形式体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。文献等の引用や図表の提示等論文としての体裁が整っているか。

(評価基準)

上記 1-5 の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

九州大学大学院生物資源環境科学府博士学位論文調査基準

(調査体制)

学位論文の調査は、主査 1 名及び副査 2 名以上の調査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文で扱う問題設定が、生物資源環境科学関連分野の研究蓄積を踏まえて明確に示され、新規性、独創性を持つ学術論文として学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、正確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、実験や調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。特に研究倫理面や研究遂行上の安全性に配慮した研究方法が採られているか。

4. 論証方法や結論の妥当性

問題設定から結論にいたる論旨は、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。

5. 論文の形式体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。文献等の引用や図表の提示等論文としての体裁が整っているか。

6. 学位論文の基礎となる主論文の公表

主論文の内容が、九州大学大学院生物資源環境科学府の「博士課程学位授与基準について」に定められた公表基準を満たしているか。

(評価基準)

上記 1-6 の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。